

親子で読書の喜びを

岩手県子どもの読書活動推進委員会

委員長 阿部 幸子

1 子どもの読書活動の意義

読書活動は、言葉を学び、感性を磨いて、表現力を高め、想像力を豊かなものにする大切な営みです。精査した情報を基に自分の考えを形成し表現する等の「新しい時代に必要となる資質・能力」を育むという点からも、その重要性は一層高まっています。

3 読みたい本との出会いを

「いわ100」「いわ100きっず」の活用

岩手県の読書調査では、本を読まなかった理由は、小中高生とも「読みたい本が見えない」と思える本に出会うことができないような働きかけが必要です。

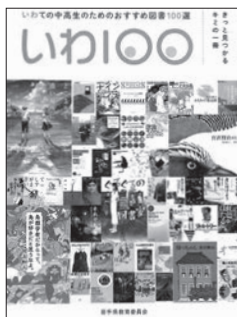
2 岩手県の児童生徒の読書活動の状況

令和元年度「岩手県子どもの読書状況調査」(岩手県教育委員会)では、1か月の平均読書冊数は、小5で16・8冊、中2で4・9冊、高2で2・4冊でした。全国調査(全国学校図書館協議会)と比較すると、小5は5・5冊、中2は0・2冊、高2は1・0冊上回っている状況です。全国平均と比較しておおむね高い水準を維持しているものの、学年が上がるにつれ、読書離れが進む傾向が見られるのが課題となっています。

このような状況をふまえて、岩手県教育委員会は、平成23年に「いわての中高生のためのおすすめ図書100選(いわ100)」・平成30年に「いわ100」改訂版、平成27年には「いわての小学生のためのおすすめ図書100選(いわ100きっず)」を作成し、県内の全小中高生へ届けました。その後、毎年県内中学校1年生に「いわ100」を、小学校1年生には「いわ100きっず」を配付しています。「いわ100」は、9つの選書テーマ「人とのつながり・友情・愛を考える」「よのなか・社会を考える」「この人の生き方から学ぶ」「不思議



「いわ100きっず」



「いわ100」

な世界を冒険する」「科学の魅力を知る」「ユーモアを味わう」「読書の楽しみに目覚める」「岩手県の作家・舞台を読む」「災害を見つめ立ち上がる」で構成されており、気軽に読める短編集や写真集、図鑑、絵本等も含めて、100冊の本を掲載しています。選書委員(中高生も含む)がそれぞれの本の魅力を紹介しており、本を選ぶ際の参考になります。「いわ100きっず」は、「絵本」「読みもの」「調べもの」「東

日本大震災の本」の4つの分類で、おすすめの本を100冊選んで掲載しています。岩手県に関係のある本も含まれています。「いわ100」と同様に、本の面白いところが分かりやすく紹介されています。

4 子どもの読書習慣を形成するには

子ども読書の習慣は、日常生活を通して身に付いていくものです。家庭ではすぐ手に取りやすいところに本があり、親も子どももいつでも読むことができるような環境をつくっていくことが大事です。

また、子ども任せでは毎日の読書時間を生み出すのは難しいので、子どもと一緒に本を読む時間を決めると効果的です。「親子で同じ本を読む」「親子でそれぞれの本を読む」等、様々な取り組みが考えられます。子どもは親が本を読む姿を見て、読書への関心を高めていきます。

子どもは学校図書館の本を読むことが多いと思いますが、時には、親子で公立図書館等に行くことをおすすめします。本を選んでいる様子から、子どもの関心事が分かります。本選びに迷っている時は、一緒に選んであげて下さい。共に本に関わる時間が、子どもの読書意欲の高まりにつながっていきます。

定期的な「わが家の読書の日」を決めて、家族で本に親しむ機会をつくるのも、おすすめしたい読書活動です。「心に残る本の内容を紹介し合う」「親がおすすめする本を子どもに読み聞かせる」「子どもがおすすめする本を親に読み聞かせる」等、様々な活動が考えられます。「家族皆で共に読書の楽しさを味わうことができた」という思いは、いつまでも子どもの心に残ります。

親子で読書の喜びを味わいながら、心豊かで本好きなお子さんを育てていきましょう。

プロフィール



阿部 幸子 (あべ さちこ)
「いわ100」選書委員会副委員長・同改訂委員会委員長。元花巻市八重畑小・滝沢市一本木小・盛岡市松園小学校長。